

法人（事業所）理念		すべての子どもたちが安心して自分らしく過ごし、一人ひとりが持つ力を伸ばしながら、その子らしく成長していけることを大切にします。			
支援方針		① 安心できる関係づくりを最優先する 職員との信頼関係と見通しの持てる環境づくりを通じて、お子さまが「ここにいて大丈夫」と感じられることを支援の出発点とします。 ② 一人ひとりの発達に合わせた支援を行う 発達段階や特性、興味・関心を丁寧に捉え、一人ひとりに合った関わりや遊びを通して、できることや経験を少しずつ広げていきます。 ③ 保育の視点を生かした支援を行う 母体保育園で培ってきた乳幼児期の発達や生活支援の知見を生かし、遊びや生活そのものを大切な学びの機会として捉えます。 活動ありきではなく、個別支援計画に基づいて、その子に必要な経験や支援を組み立てます。 ④ ご家族と一緒に歩む支援を行う 日々のお子さまの姿や成長を共有し、ご家族の思いや困りごとにも寄り添いながら、家庭と事業所が一緒にお子さまの育ちを支えます。			
営業時間		10 時 00 分から 17 時 00 分まで 土・日・祝日・年末年始及び12:30-13:30を除く	送迎実施の有無	あり なし	
		支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	一人ひとりの発達段階や生活状況に合わせて、着替えや手洗い、排泄などの基本的な生活習慣を身につけられるよう支援する。職員が必要に応じて寄り添いながら、「自分でやってみたい」という気持ちや、自分でできることを少しずつ増やしていく。			
	運動・感覚	一人ひとりの感覚特性や身体の発達に合わせて、遊びや運動を通してさまざまな身体の動きや感覚を経験できるよう支援する。楽しみながら、姿勢やバランス、手指の操作、身体の使い方などを育む。			
	認知・行動	遊びや生活の中で、見る・聞く・考える・試すなどの経験を重ねる。一人ひとりの理解の仕方に合わせて環境や関わり方を工夫し、見通しを持って行動することや、自分で選び、考え、取り組む力を育む。			
	言語 コミュニケーション	表情や身振り、ことばなど、その子に合った方法で自分の気持ちや要求を表現できるよう支援する。職員や友だちとのやり取りを通して、「伝えたい」「伝わった」という経験を重ね、ことばやコミュニケーションの力を育む。			
	人間関係 社会性	安心できる職員との関係を土台に、遊びや小集団での活動を通して友だちへの興味や関わりを広げる。一緒に楽しむ、順番を待つ、気持ちを伝えるなどの経験を重ねながら、人と関わるための基礎となる力を育む。			
家族支援		・日々の対話や連絡帳等を通じて、お子さまの様子や成長を丁寧に共有するとともに、家庭での様子や困りごとを把握し、必要な支援と一緒に考える。 ・定期的な個別面談（個別支援計画の見直しを含む）や、必要に応じた相談支援を行う。 ・ご家族の思いや子育てに対する考えを尊重し、家庭と事業所が同じ方向を向いてお子さまの成長を支えられるよう連携する。 ・きょうだいを含めた家族全体の状況にも配慮し、必要に応じて関係機関との連携につなげる。	移行支援	・併行利用している保育所・幼稚園等と、必要に応じて訪問や情報共有を行い、生活や支援につながりを持たせる。 ・就園・就学等の環境の変化を見据え、ご家族や関係機関と情報共有・連携を行う。 ・環境が変化する際には、本人が安心して新しい生活へ移行できるよう、個別支援計画を見直し、必要な支援を行う。	
地域支援・地域連携		・母体保育園を含む法人内で日常的に情報共有や連携を行い、保育と発達支援それぞれの視点や経験を生かす。 ・保育所・幼稚園、相談支援事業所、医療・福祉機関等と、必要に応じて情報共有や連携を行う。 ・地域の関係機関や自立支援協議会等とのつながりを持ち、地域の中で切れ目のない支援につなげる。	職員の質の向上	・法人内研修や事業所内研修を定期的 to 実施し、乳幼児期の発達、障害特性、発達支援、権利擁護、虐待防止等について学ぶ。 ・外部研修への参加や専門職等からの助言を通じて、保育と発達支援の双方の専門性を高める。 ・日々の支援を職員間で振り返り、ケース会議等を通じて一人ひとりに適した関わりや支援方法を検討し、支援の質を組織として高める。	
主な行事等		・七夕、夏祭り、ハロウィン、クリスマス、節分、ひな祭り等、季節や文化に親しむ行事 ・避難訓練、防災に関する活動 ・その他、お子さまの発達段階や興味・関心に応じた活動			